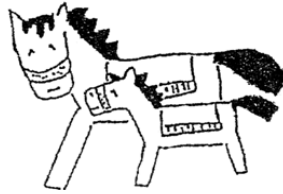


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 6月 NO. 247



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		6月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
6月 6日	土	体験保育 10:00～12:00		同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
6月 20日	土	体験保育 10:00～12:00		出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
6月 20日	土	おとなアート 14:00～16:00		粘土の素材を楽しみながら、握る動作を 重ねて作品づくりをします。 材料準備のため6/13(土)までに予約要。
6月 22日	月	香川みすゞさんの会 14:00～16:00		戦争体験を語りつぐ会(グループらいふ)の 岡田昌子さんに話していただき フリートークします。
6月 26日	金	健康・育児相談 11:00～12:00		園医師(小児科)にゆっくり 相談できます。(予約要)
6月 26日	金	おはなしの会 10:00～11:30		みんな出ておいで!をテーマにわらべ唄や 大型絵本、パネルシアターがあります。

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

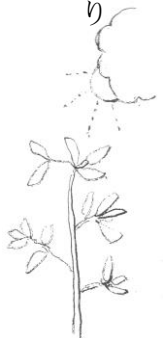
香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ
美しい町
下集②

雲のかげからお日いさま、
いたずらそうに、笑ってる。
「おおお、お日さま、お久しぶり、
ずいぶんみんなは待ちました。」
どの葉も、どの葉も、うれしげに。
どの木も、どの木も、枝ならし、
雲のかげからお日いさま、
ちよいと、目ばかり出してます。
「あれあれ、あすこにお日いさま。」
「ばんさきにみつけたは、
ちいさなはこべの花でした。」

雨あがり



26年3月3日、当園の地域子育て支援センター（こうまぐみ）主催で映画「生まれる」の上映とコンサートを開きました。その時、ユニセフ活動についてパネル展示したり、世界中のこどもたちの支援のためのご寄附もお願いし、15,890円のご協力をいただきましたこと、本当にありがとうございました。

さっそく香川県ユニセフ協会を通して送金し、本部の日本ユニセフ協会から領収証とお礼状が届きました。その時からかなり月日はたちましたが、今一度、ユニセフ（国際連合機関のひとつである）の活動を知り、世界の子どもたちのために私たちができることは何か、考えるきっかけになればと思い、ここにご紹介します。

ユニセフとは



ネパールの大地震で、家が壊れるなどの被害にあった子どもたちを助けようと、国際連合児童基金（ユニセフ）が協力を呼びかけています。

ユニセフは世界の子どもを守り、成長を応援する団体で、1946年につくられました。当時は、第二次世界大戦が終わったすぐ後で、食べ物が足りない国の子どもたちは、栄養がきちんととれませんでした。ユニセフは子どもたちに粉ミルクなどを送り、日本でも学校の給食で粉ミルクを飲んでいました。

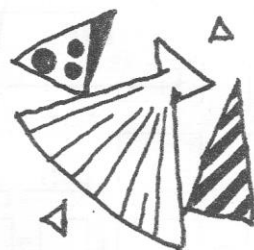
その後もまずしい国で、学校に行けない子に文字を教えたり、病気をへらすために飲み水をきれいにしたりする活動を続け、65年にノーベル平和賞を受けました。最近も災害や伝染病、国の争いなどで多くの子どもがけがをしたり、親をなくしたりしています。ユニセフは、子どもたちがつらい気持ちをかかえこんで苦しまないよう、ささえる大切さをうたえています。

ユニセフの活動(世界150以上の国と地域で支援)の成果について

子どもの命と成長を守る

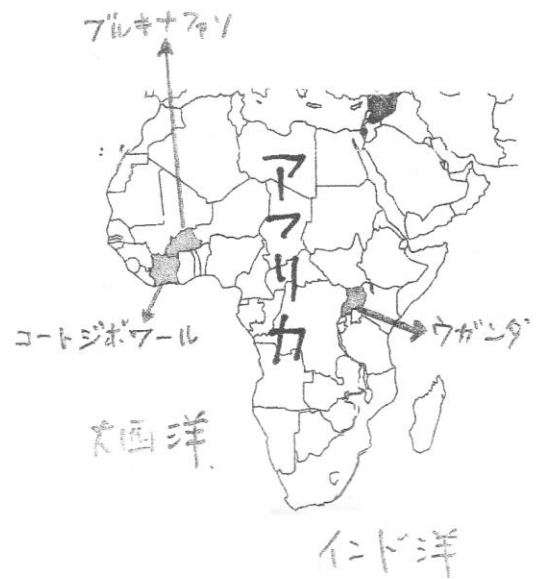
ブルキナファソ＝子どもたちの栄養不良を防ぐ

ブルキナファソの2歳の女の子マリアマちゃんは、重度の栄養不良になり、45日間入院しました。入院当時の体重はわずか5キロでした。栄養不良は5歳未満児の死亡原因の3分の1に関係しているだけでなく、知能や身体の発達



の遅れをもたらし、その後の子どもたちの人生を脅かし続ける重大な問題です。

ブルキナファソは、これまで干ばつ被害を繰り返してきました。政府は、再び干ばつが発生しても、その被害を最小限に防ぐために子どもの栄養不良を予防する政策に力を入れています。栄養不良の原因は、食糧の不足だけではなく、家族が栄養に関する知識が不足していることもあります。子どものいる家庭に保健スタッフが戸別訪問し、子どもの成長に必要な栄養や適切な食事について説明する取り組みを行っています。活動が広がる中で家族は子どもが適切な栄養を摂取することで病気にかかりにくくなることに気づき、人々の意識や行動が変化してきています。マリアナちゃんのお母さんも栄養が豊富なおかゆの作り方を覚え、家庭で栄養不良の治療を継続しています。



H I V / エイズと子ども

コートジボワール＝孤独から子どもたちを守る



「僕のH I V感染がわかったとき、伯母に感染について誰にも話すなと言われてきました。感染がわかると、そばに近づくことさえ嫌がる人たちもいるからと」H I Vと共に生きる13歳のジャン君。コートジボワールは西アフリカの中で感染率が高い国ですが、H I V / エイズへの強い偏見が残っています。偏見は感染している思春期の子どもたちを孤立させ、治療へのアクセスを妨げます。

両親が亡くなっているジャン君はNGOの支援を受けています。NGOスタッフはジャン君が薬を正しく服用しているか確認し、またH I Vと共に生きる子どもたちの集会を紹介してくれました。

集会では、子ども同士で経験や悩みを共有し、ライフスキルを学んでいます。NGOスタッフのセシルさんは、「思春期の子どもたちは多くのサポートを必要としています。彼らは信頼して秘密を打ち明けられ、経験を共有できる誰が必要なのです」と話します。ジャン君は「支援を受けることでH I V感染に

悩み苦しむことなく前向きに人生を歩んでいけます。30年後には、素晴らしい人生をおくっていると思います」。

子どもに対する暴力

ウガンダ＝学校での暴力を防止するための研修

ウガンダでは数々の子どもに対する暴力に関しての法的な枠組みがあるにも関わらず、子どもに対する暴力が社会的に広く容認されていて、学校内での児童・生徒に対する暴力も日常にみられる状況です。2010年の調査では、実に91%もの小学校3年生の児童が先生からの暴力を経験したことがあると回答し、小学6年生もその率は88%と高いものでした。また学校内で性的被害にあったと回答した児童が小学3年生で6%、小学6年生で7%おり、また調査対象の98%の生徒が肉体的または精神的暴力を過去に経験したことがあると回答しています。

先生から学校内で体罰を受ける理由としては、遅刻や騒がしい、授業の趣旨を児童・生徒が十分に捉えられていないなどがあります。体罰の具体例としては、棒でうつ、平手でうつ、蹴る、つねるなどです。

そこで、教育スポーツ省は、ユニセフ・ウガンダ事務所と共同で、体罰に替わる指導法の冊子と教師の行動規範の冊子をウガンダの小学校全校(約2万校)へ配布しました。また、470名の教育大学の指導者、12,000名の小学校の教員および150名の自治体レベルの学校事業担当職員を対象に、安全な学校づくりのための研修を実施しました。現在までに全小学校の75%と全教育者養成の指導者63%への研修を実施することができています。

(ユニセフT. NET通信より)

香川県ユニセフ協会 〒760-0054 高松市常磐町2-8-8 コープかがわ
コミュニティールーム内 ☎087-835-6810 FAX:087-835-6810
(月～金 10時～16時) URL <http://www.unicef-kagawa.gr.jp/>

